

## 金曜日の会 報告

- 1 期日 4月10日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O AK AS YO
- 4 内容

・校内研究資料(YO)

学級映像『ぼくのいぬころ』(YO)

教材解釈『こわれた千の楽器』(AS)

校内研究で、私たちの会が大切にしていることをどう伝えたらよいかを考えました。やはり、昨年度の研究主任から成果と課題を聞き、その内容に接点を見いだしながら進めるようにしないといけないと思いました。また、校内の若い先生にも伝わるように、具体的にイメージがわく伝え方を考えなくてはなりません。問題作りにおける変化や矛盾といった用語も、具体例をあげるべきでした。相手意識をもつことは、授業と同じだと思いました。

学級映像からは、教師の意図が『反応』にあるのならば、『まるくなつてころがつてくる』から出てきた『だんごむし説』にうんとのっかることで、クラスみんなの気持ちをのせることができると分かりました。また、教師がもっと誉めなくてはなりません。いいなあと感じたことを心のこもった飾らない言葉で伝え、子どもたちをいい気持ちにさせるのです。さらに、学年持ち上がりの場合、去年担任した4分の1より、他のクラスからきた子どもたちの埋もれた力の方がすごいという考えに立つ必要があります。A先生の語り方、仕草、動きから、見習うことの多い映像でした。

AS先生が、今年の子どものスタートを生き生きと語る姿が印象的でした。学んだことを実践して、子どもたち一人一人が見えてきたのかもしれませんが。今後も、楽しみです。教材を通した問題作りでは、子どもみんなに入る(分かる、伝わる)伝え方を演習しました。私も、とても勉強になりました。ありがとうございました。YO